

Ⅲ. 妻の親・夫の親への援助の意向

(1) 夫婦の関係が親への援助の意向にも影響

結婚している女性を対象に、自分の親と夫の親、それぞれに対する非経済的援助（家事・介護・訪問など）の意向についてたずねた（図表Ⅲ-1）。

自分の親と夫の親の両方に対して援助の意向をもつ人が最も多く、全体の約 4 割を占める。一方で、自分の親、夫の親のどちらにも援助の意向をもたない人が約 3 割いる。どちらかの親に対してだけ援助の意向をもつ人はそれぞれ 15%程度である。一方の親だけではなくどちらの親にもバランスをとって援助をしようという意向の妻が多い。

それぞれのグループの特徴をみてみると、主に夫の親からの経済的援助を受けている場合は、「両方とも援助する」「夫の親中心」とした援助意向の人が多く、妻の親からの経済的援助を受けている場合、「妻の親中心」とした援助意向の人が多く。

妻の夫婦関係満足度との関係では、「両方とも援助する」に満足という妻が、「妻の親中心」に不満という妻が、他のグループよりも多い傾向がある。

夫婦関係の実情が、親への援助意向に反映されていることがわかる。

図表Ⅲ-1 妻の親・夫の親に対する援助意向とその特徴

		構成比	各グループの特徴		
			経済的援助を受けている場合	夫婦関係	きょうだい
親への援助意向	両方とも援助する	41.7%	夫の親からの援助が中心	満足という人が多い	夫妻ともにきょうだいが少ない
	夫の親中心	15.1%			夫が長男
	妻の親中心	14.5%	妻の親からの援助が中心	不満と回答する割合が他より高い	妻が一人娘/姉妹のみ
	両方とも援助しない	28.7%			夫が次三男/妻のきょうだいが多く